

# 令和4年（2022年）7月5日に高知県（四国地方）で 線状降水帯が発生した事例

## 【概要】

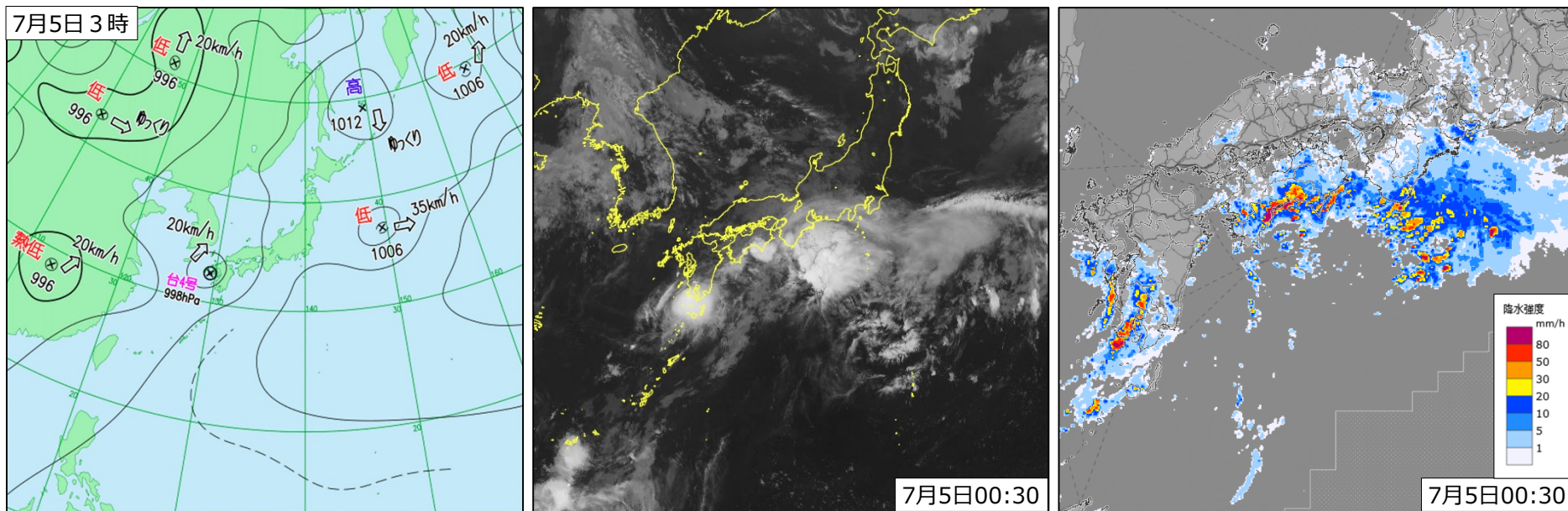
- 高知県で、7月5日未明に線状降水帯が発生した。
- 四国地方に対して、半日程度前からの呼びかけは実施していなかった。

令和4年7月 気象庁大気海洋部

# 気象の概況

## ■ 概要

- 台風第4号や太平洋高気圧の縁をまわって流入する暖かく湿った空気の影響で、西日本では7月3日から5日にかけて四国地方の太平洋側や九州を中心に大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降り、大雨となった。
- 7月5日未明には、高知県で線状降水帯が発生し、猛烈な雨が降った。

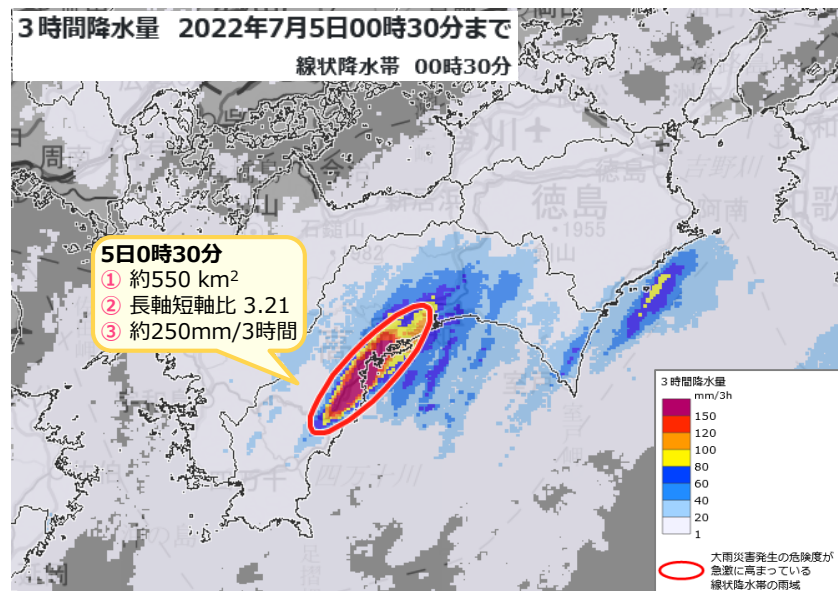


7月5日に四国地方で線状降水帯が発生した際の気象状況 左：天気図 中央：気象衛星画像 右：気象レーダー

# 線状降水帯の予測及び発生状況

- 半日程度前の段階では、線状降水帯の予測情報を発表する判断に至らなかった。  
※ 四国地方における3時間雨量予測は70ミリ程度であった。
- 線状降水帯の発生した地方予報区  
四国地方（高知県） 顕著な大雨に関する気象情報：7月5日00時39分発表

## ○ 線状降水帯が発生したときの3時間降水量



## 顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

- ① 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km<sup>2</sup>以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）において土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壤雨量 指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキル（洪水警報の危険度分布）において 警報基準を大きく超過した基準を実況で超過

## ○ 線状降水帯の予測に対する発生状況

### ● 四国地方

半日程度前の段階では、これまでの経緯を踏まえて予想した気象状況から、災害が発生してもおかしくない大雨となる判断は難しかったため、線状降水帯の予測情報を発表しなかった。

5日未明に線状降水帯が発生し、約1時間40分継続、多い所で3時間降水量が約260ミリ※に達する雨を観測した。

※ 線状降水帯が発生している期間内の、気象レーダー等による解析雨量

# 本資料について

- 本資料は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施した事例、および線状降水帯が発生※した事例の速報的な検証資料です。  
※ ここで、「線状降水帯が発生した」とは、前ページの「顕著な大雨に関する気象情報の発表基準」を満たした場合をいいます。
- 本検証資料は「大雨事例等における防災気象情報の精度検証と発表基準の改善」のページからアクセスできます。  
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jirei/index.html>
- 関連する情報は、「線状降水帯に関する各種情報」のページをご覧ください。  
[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/kishojoho\\_senjokousuitai.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html)
- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを、地方予報区単位で実施していることから、検証も地方予報区単位で実施し、同じ地方予報区でも時間がある程度あいた場合等は異なる事例として取り扱っています。ただし、ここに掲載する検証資料は、地方予報区をまたいで線状降水帯が発生した場合等に1つにまとめていることがあります。

現在の技術では、線状降水帯による大雨の正確な予測は難しく、呼びかけを実施しても必ずしも線状降水帯が発生するわけではありませんが、線状降水帯が発生しなくても大雨となる可能性は高いため、この情報が発表されたときには心構えを一段高めてください。

また、線状降水帯による大雨の呼びかけがなくても、線状降水帯が発生したり、災害をもたらすような大雨となったりすることがあるため、自治体が発令する避難情報や、大雨警報やキキクル等の段階的に発表される防災気象情報とあわせてご活用ください。